



令和4年1月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和4年1月分について、輸出額は「自動車」などが減少したものの、「鉄鋼」、「無機化合物」、「電気計測機器」などが増加したことから、対前年同月比1.5%の増加となった。また、輸入額は「液化天然ガス」、「アルミニウム及び同合金」、「絶縁電線及び絶縁ケーブル」などが増加したことから、同43.3%の増加となった。

その結果、差引額は3,558億円（同29.6%の減少）となった。

注）本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

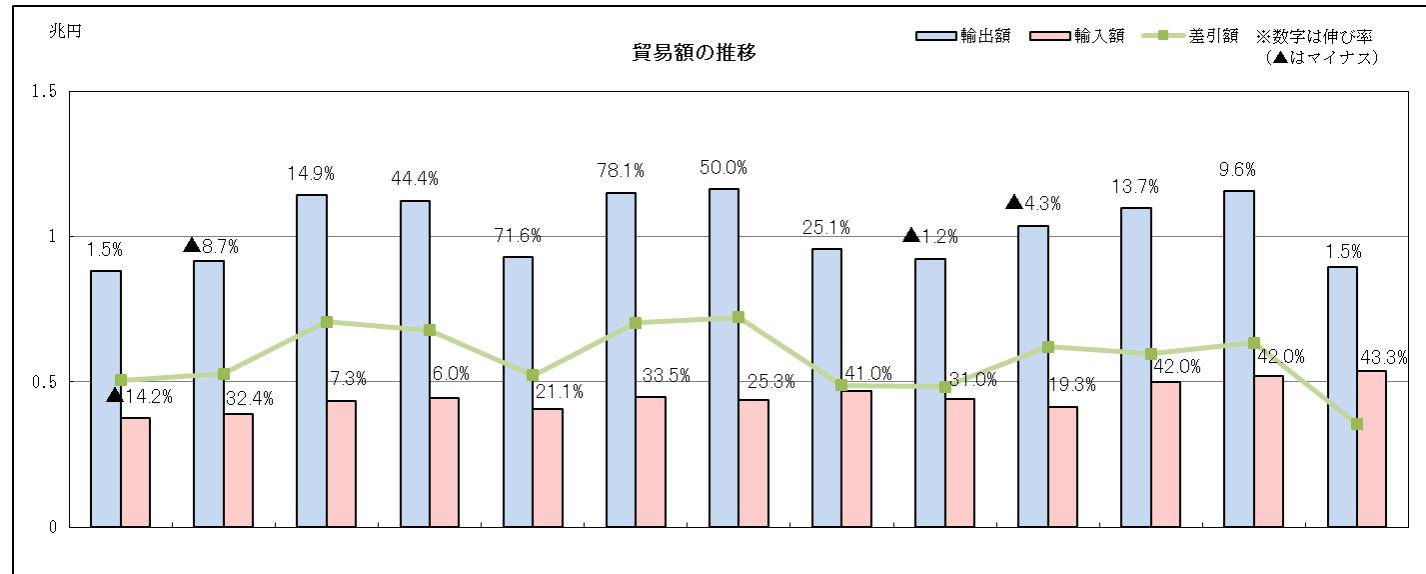
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	8,943億円	+1.5%	5,385億円	+43.3%	3,558億円	▲29.6%
	3ヵ月連続の増加		12ヵ月連続の増加		5ヵ月連続の減少	
管内（名港シェア）	1兆3,664億円 (65.5%)		9,988億円 (53.9%)		3,677億円 (—)	
全国（名港シェア）	6兆3,320億円 (14.1%)		8兆5,231億円 (6.3%)		▲2兆1,911億円 (—)	

注）名古屋港における差引額は、平成23年6月以降128ヵ月（10年8ヵ月）連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

		概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出	(1)	鉄鋼	244億円	+27.4%	+0.6	13ヵ月連続の増加
	(2)	無機化合物	90億円	+80.4%	+0.5	3ヵ月連続の増加
	(3)	電気計測機器	319億円	+14.0%	+0.4	10ヵ月連続の増加
輸入	(1)	自動車	1,935億円	▲11.6%	▲2.9	3ヵ月ぶりの減少
	(1)	液化天然ガス	496億円	+52.0%	+4.5	7ヵ月連続の増加
	(2)	アルミニウム及び同合金	356億円	+77.4%	+4.1	13ヵ月連続の増加
	(3)	絶縁電線及び絶縁ケーブル	★ 293億円	+42.5%	+2.3	3ヵ月連続の増加



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。